

事業名 CD		小中学校図書館司書設置事業
細分化した事業名		小中学校図書館司書設置事業
事業担当課室 CD		教育課
		整理コード

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	将来を担う子どもをのびのび育むまちづくり
	中項目	子どもが夢を持ち続けることができる教育の充実
	小項目	学校教育の充実
		根拠条例等
関連する事業		

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	学校図書館の有効活用と円滑な管理運営を行い、児童の読書への意欲・関心の向上を図る。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	市内小中学校児童生徒
これまでの改善経過	
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	〈実施・運営方法〉 <input checked="" type="checkbox"/> 市 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他() 各小中学校に1名ずつ図書館司書を配置し、読書活動等の指導を行う。
事業の成果 (どのような状態にしたいのか) (どのような効果を得るのか)	専門知識を有する司書の指導により、児童生徒の読書活動への意欲の向上、また調べ学習や主体的な学習活動の推進が図れる。

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20年度	21年度	22年度
A	事業費 (千円)	18,475	22,446	19,363
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	市債			
	その他			
	一般財源	18,475	22,446	19,363
B	担当職員数(非常勤 職員E) (人)	0.00 0.05	0.00 0.05	0.00 0.03
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	345	341	202
D	総事業費(A+C) (千円)	18,820	22,787	19,565
*参考	H22)市民1人当りの事業コスト	612 円	H22)市民1人当りの行政サービス費用	599,027 円

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。

注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)、22年度(6,719千円)を使用しています。

注3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			20年度	21年度	22年度
活動指標	司書配置学校数	図書館司書を配置した市内小中学校	7	7	7
成果指標	司書有資格者配置率	司書の資格を持つ職員の配置率 (有資格者数/配置数) 6校/7校	0.7	0.7	0.9
	1人あたりの年間読書冊数	年間貸出し冊数/児童生徒数 195,453冊/2,858人	62.45	64.55	68.4
効率指標	児童1人あたりのコスト	総事業費/児童生徒数 (19,363,000円/2,858人)	6,101	7,627	6,775

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 妥当である <input type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 児童の読書活動の推進を図り、調べ学習や主体的な学習活動を支援するために、専門知識のある図書館司書を設置することは妥当である。		
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 子どもの読書離れが指摘される中、一人あたりの年間読書冊数は増加傾向にあり、一定の読書量が保たれている。		
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 司書の配置は各小中学校それぞれに1名ずつの配置であり、これ以上のコストの削減は難しい。		
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成		
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化(コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 手段の改善(実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化(結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化(事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合(他の事業と統合する、または廃止する) <input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり		
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)		
	(1) 中長期的 継続して司書の配置を行う。	(2) 24年度 現行どおり	(3) 23年度 全ての小中学校の司書を有資格者にする。
	22年度の改善計画 人件費の削減及び司書有資格者の増員		
22年度の改善結果 成果が向上する中で人件費の削減ができ、また司書有資格者も1名増員となった。			
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること)			
課長所見	学校図書館を有効に活用するために専門知識を有する司書を設置することは必要であり、今後も継続して実施していく。		